

認知症新時代：予防、新薬、基本法

木下 彩栄

京都大学大学院医学研究科

感染症、がんや生活習慣病など、人類を脅かす疾患について、さまざまな治療法が開発され、日本人の寿命も延びてきました。とくに、がんの原因である感染症へのアプローチにより、胃がん、肝臓がん、子宮がんなどは大きく減ることが期待されていますし、早期発見により5年生存率も高まってきました。一方で、こうした疾患を克服しても、高齢になると誰もが認知症にかかりうるリスクを持っています。超高齢化がすすむ本邦では、認知症に罹患している人は2025年現在で500万人弱、さらに、その前段階の軽度認知障害（MCI）の方が500万人ほどと推計されています。今後、高齢化率がさらに増加することから、認知症患者数は当面増加するものと考えられ、社会的に喫緊の課題となっています。

しかしながら、ここ1～2年、認知症に関する新しい研究成果が世に出てきました。まずは、認知症の発症予防、進行抑制を目的とする生活習慣の改善です。幼少期の教育歴やスポーツなどによる頭部外傷、中高年における生活習慣病など、認知症になる前の若い頃から気を付けておく必要のある危険因子が徐々に明らかになってきましたので、それについてお話ししたいと思います。

次に、認知症の新薬開発に伴って新たな治療の流れができましたので、そのお話をさせていただきます。認知症の最大の要因であるアルツハイマー病に対しての新規薬剤が開発され、2023年暮れより上市されています。これは、抗体医薬という特殊な薬剤ですので、一部の病院でしか導入されていません。また、進行した状態の方には効果がありませんので、早期発見も重要になります。早期発見のポイントと、受診の流れ、必要なバイオマーカー検査などについて説明したいと思います。

最後に、2024年1月より施行されている認知症基本法の狙い、認知症があっても当たり前で暮らしていけるような世の中とは？ということについて述べたいと思います。

略 歴 書

木下彩栄 (きのしたあやえ)

1964年11月18日生

[現職] 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授 (在宅医療・認知症学分野)

[学歴・職歴]

1983年 愛知県立旭丘高等学校卒業

1989年 京都大学医学部卒業

1989年 京都大学医学部附属病院神経内科研修医 (木村淳教授)

1990年—1992年 天理よろづ相談所病院神経内科 医員

1992年—1994年 都立神経病院神経内科 医員

1994年—1998年 京都大学大学院医学研究科博士課程 脳統御医科学系専攻 (木村淳教授)

1998年 同修了、医学博士取得 (京都大学)

1998年—1999年 学術振興会特別研究員

1999年—2002年 生理学研究所 助手 (重本隆一教授) (2000年—2002年 同 休職)

2000年—2003年 ハーバード大学医学部神経内科 マサチューセッツ総合病院 博士研究員

(2002年—lecturer)

2003年—2005年 京都大学医学部先端領域融合医学研究機構 アルツハイマー病研究グループ 特任助教授

2005年—現在 京都大学医学部人間健康科学科 教授 (在宅医療・認知症学分野)

2022年4月—2023年3月 人間健康科学系専攻 専攻長補佐、先端看護科学コース長

2023年4月—現在 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 学系長・副専攻長

2023年—現在 京都大学 理事補

[公的活動] 継続中のもののみ記載

2022年4月—現在 日本医療研究開発機構(AMED) ヘルスケア社会実装基盤整備事業プログラムオフィサー (PO)

2024年4月— 厚生労働省社会保障審議会専門委員、介護報酬改定検証・研究調査事業「高齢者施設等と医療機関に関わる連携に関する調査研究事業」 副委員長

[学位] 医学博士 (京都大学)

[資格] 医籍登録第327811号 (H1.6.23、H2改姓)

認定内科医(81369 番)、神経学会専門医(1917 号)、認知症学会専門医 (291 号)、
認知症サポート医

[学会] 日本認知症学会 (理事、広報委員会委員長)、日本神経学会 (代議員、認知症コ
アセクションメンバー)、日本内科学会、日本神経科学会、国際アルツハイマー
病学会(AAIC)、日本看護科学学会